株式会社セキュア（証券コード：4264）

2026年12月期第3四半期決算説明資料
FY2026 Q3 Financial Results Presentation

売上高 前期比＋32%　営業利益 前期比+41%で着地
フィジカルAIインフラカンパニーを目指し事業基盤を拡大

＜戦略的提携とグループシナジーで、中長期の成長を力強く牽引＞

SECURE

Company
SECURE Inc.

Ver.
2026/11/12

01

会社概要

01　会社概要
02　業績ハイライト（FY2026 Q3）
03　業績見通し（FY2026）
04　フィジカルAIインフラカンパニーへ
05　Appendix

Mission

Make place Secure
Upgrade place Smart



Vision

AI × セキュリティで
新しい価値を創る

AI
（画像認識）

×

セキュリティ

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

当社の概要

基礎情報

会社名	株式会社セキュア（英文表記：SECURE, INC.）
代表者	代表取締役　谷口辰成
設立	2002年10月　（第2創業 2010年）
資本金	1,769,414,650円（2026年9月末現在）
本社	〒163-0220 東京都新宿区西新宿二丁目6-1 新宿住友ビル20F
子会社	SECURE KOREA, Inc.（当社100%） 株式会社ジェイ・ティー・エヌ（当社100%） 株式会社メディアシステム（当社100%） 株式会社TOUCH TO GO（当社56.2%） 株式会社テスコムジャパン(当社100%)
主な事業内容	セキュリティソリューション事業
事業許可等	【一般建設業】 国土交通大臣許可（般-6）第27739号 建設業の種類 電気工事業 国土交通大臣許可（般-6）第27739号 建設業の種類 電気通信工事業
所属団体	一般社団法人　日本コンピュータシステム販売店協会 一般社団法人　日本ディープラーニング協会

社員数



2026年9月末時点

役職員数 340名※（連結）

※派遣・出向社員等含む

拠点



※1 本社及びSecurity System Lab

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

セキュリティソリューション

自社開発ソフトウェアと1,000種超のデバイスで、フィジカルセキュリティシステムを**ワンストップで構築**
AI（画像認識）を組み込むことで、防犯に加え、**省人化対応や業務効率化など**幅広い用途に価値を拡張

AI
×
フィジカルセキュリティ
システム

=

ソフト



セキュリティのDX

×

ハード





＋1,000以上アイテム

ＡＩ技術※
（画像認識）

顔認証 **行動分析** **人検出** **群衆解析**

※AI未実装のサービスも存在します

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

商品・サービスの概要

３つのカテゴリーでサービスを提供

主に「オフィス・工場・商業施設」などに対してセキュリティソリューションを展開

1 SECURE AC 入退室管理システム Access Control	2 SECURE VS 監視カメラシステム Video Surveillance	3 SECURE Analytics 画像解析サービス/その他
		
提供サービス ＊主要商品 入退室管理システム SECURE AC SECURE AC Cloud	提供サービス ＊主要商品 監視カメラシステム SECURE VS Xops SECURE VS Cloud	提供サービス ＊主要商品 混雑COUNT vemcount
売上構成比 FY2025：1,857百万円 売上構成比率： 27.2 %	売上構成比 FY2025：4,178百万円 売上構成比率： 61.1 %	売上構成比 FY2025：242百万円 売上構成比率： 3.5 %

*SECURE ESの売上構成比8.2%を含めて100%になります

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

02

業績ハイライト
FY2026 Q3

01　会社概要
02　業績ハイライト（FY2026 Q3）
03　業績見通し（FY2026）
04　フィジカルAIインフラカンパニーへ
05　Appendix

2026年12月期 第3四半期ハイライト

FY2026 Q3進捗

売上高

6,570百万円

前年同期比 **+32.8%**

進捗率※ **71.4%**

営業利益

290百万円

前年同期比 **+41.7%**

進捗率※ **72.6%**

*進捗率は2026年11月12日発表の業績予想に対する進捗率

- ✓ 売上高は需要拡大に伴い各サービスが増収したことにより、前年同期比＋32.8％で着地
- ✓ 販管費は採用を中心とした人件費関連の先行投資、およびM＆A関連の一過性費用により増額、TOUCH TO GO（以下、TTG）の赤字を取り込むも営業利益は290百万円と前年同期比+41.7%の着地
- ✓ TTGは4月1日付で連結子会社化、人手不足が深刻化する小売業界に向けた無人化・省人化ソリューションの提供を加速　＜P/LはFY2026/Q3から連結＞
- ✓ テスコムジャパン7月1日付で連結子会社化、ハードウェアの設計・製造機能を内製化し、AI × 決済 × ハードウェアの一体開発を加速　＜ P/LはFY2026/Q4から連結＞
- ✓ 10月に日東通信の子会社化を発表（株式取得は12月18日予定）、東北地域の施工・保守体制の拡充と専門人材を取り込みグループ全体の技術力強化を図る　＜ P/LはFY2027/Q1から連結＞

FY2026 見通し

売上高累計

9,200百万円

前年同期比 **+34.5%**

営業利益累計

400百万円

前年同期比 **+22.7%**

- ✓ 売上**82億円→92億円**へ上方修正
  営業利益**6.2億円→4億円**へ下方修正
- ✓ 一定の利益を残しつつPMIや来期以降の成長に向けた投資（2.2億円）を実行
  - ・M&Aに関する一過性費用 93～113百万円
  - ・TTGの赤字75～95百万円
  - ・新たに発生したのれん償却費用等32百万円
- ✓ 物理セキュリティからフィジカルAIインフラカンパニーを目指すため事業基盤を拡大

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

2026年12月期 第3四半期連結業績サマリー

売上高は前年同期比＋32.8%の成長、M＆A関連の一過性費用およびTTGの赤字を取り込むも
営業利益は前年同期比＋41.7%増益の290百万円で着地
親会社株主に帰属する当期純利益は、特別損失の計上により一時的に押し下げられたものの、本業収益基盤の変動はなし

（百万円）	FY2025 Q3実績	FY2026 業績予想*	FY2026 Q3実績	前期比（FY25-26比較） 増減額	前期比（FY25-26比較） 増減率	業績予想※ 進捗率
売上高	4,948	9,200	**6,570**	+1,621	+32.8%	71.4%
SECURE AC（入退室管理システム）	1,353	-	**1,806**	+452	+33.5%	-
SECURE VS（監視カメラシステム）	3,035	-	**3,862**	+826	+27.2%	-
SECURE Analytics（画像解析サービス/その他）	188	-	**436**	+248	+132.1%	-
SECURE ES（エンジニアリングサービス）	371	-	**464**	+93	+25.2%	-
売上総利益	2,035	-	**2,667**	+631	+31.0%	-
販売管理費	1,831	-	**2,376**	+545	+29.8%	-
営業利益	204	400	**290**	+85	+41.7%	72.6%
営業利益率（%）	4.1%	4.3%	**4.4%**	+0.3pt	-	-
経常利益	187	365	**269**	+81	+43.6%	73.7%
税引前当期純利益	187	-	**227**	+40	+21.5%	-
親会社株主に帰属する当期純利益	104	未定	**124**	+20	+19.2%	-

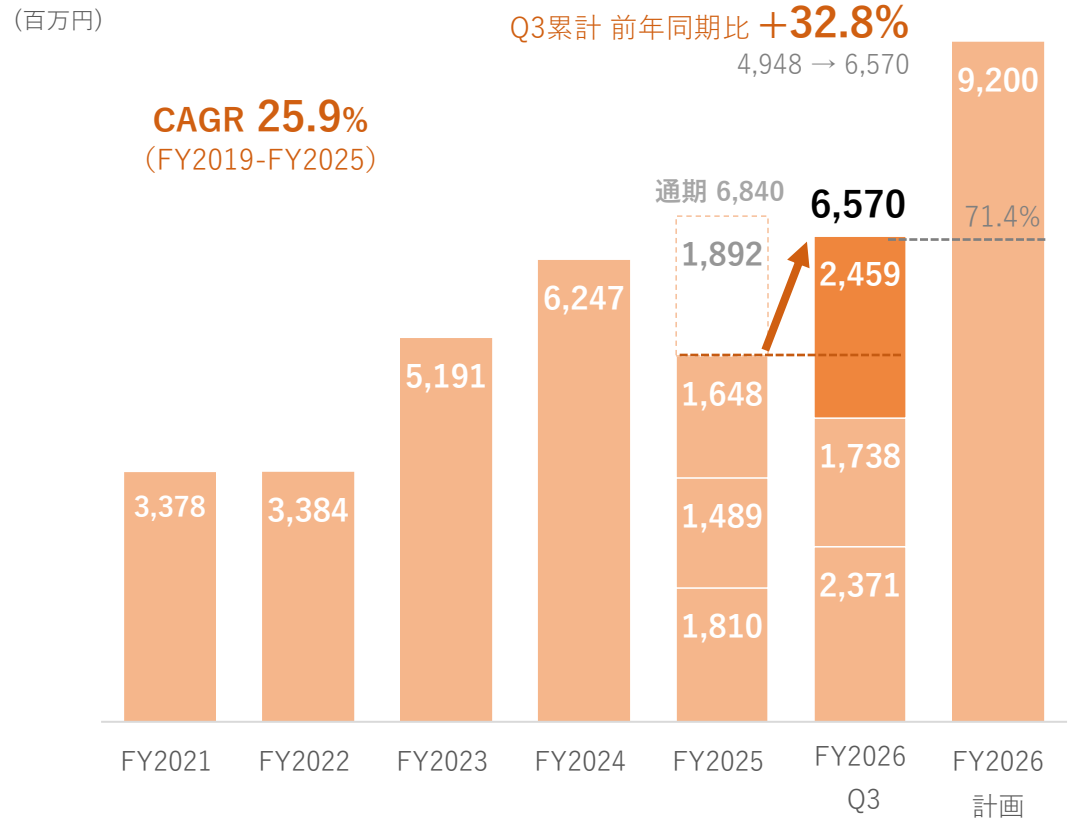
© SECURE Inc. All Rights Reserved.

※1 業績予想は2026年11月12日発表　※2 第2四半期において投資有価証券評価損を41百万円計上

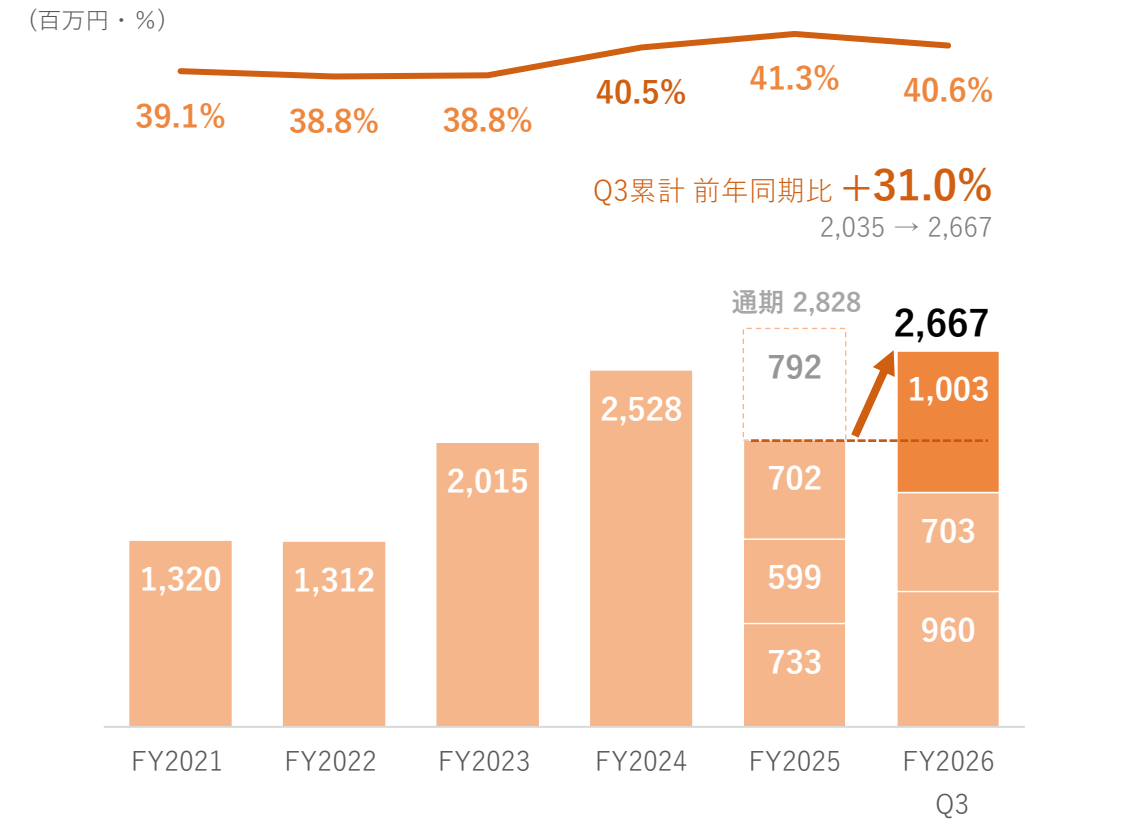
2026年12月期 第3四半期全体売上・売上総利益

Q３よりTTGのP/L連結の開始、売上高は前年同期比＋32.8%、売上総利益は+31.0%で着地
売上総利益率は、為替・インフレ等の外部要因があるも40%台を維持

売上高



売上総利益・総利益率



© SECURE Inc. All Rights Reserved.

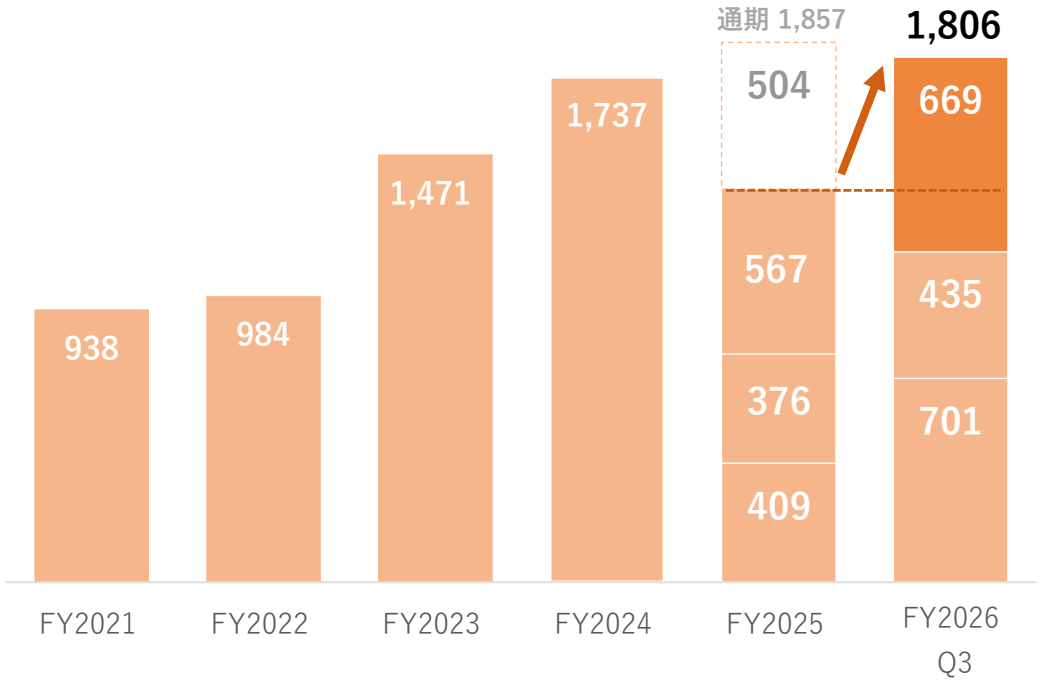
「SECURE AC」業績推移

Q２に引き続き大型案件の納品が寄与し、前年同期比＋33.5%増収で着地
大型案件へのシフトにより、導入件数が前年同期と比べ減少も、案件単価は上昇

売上高

（百万円）

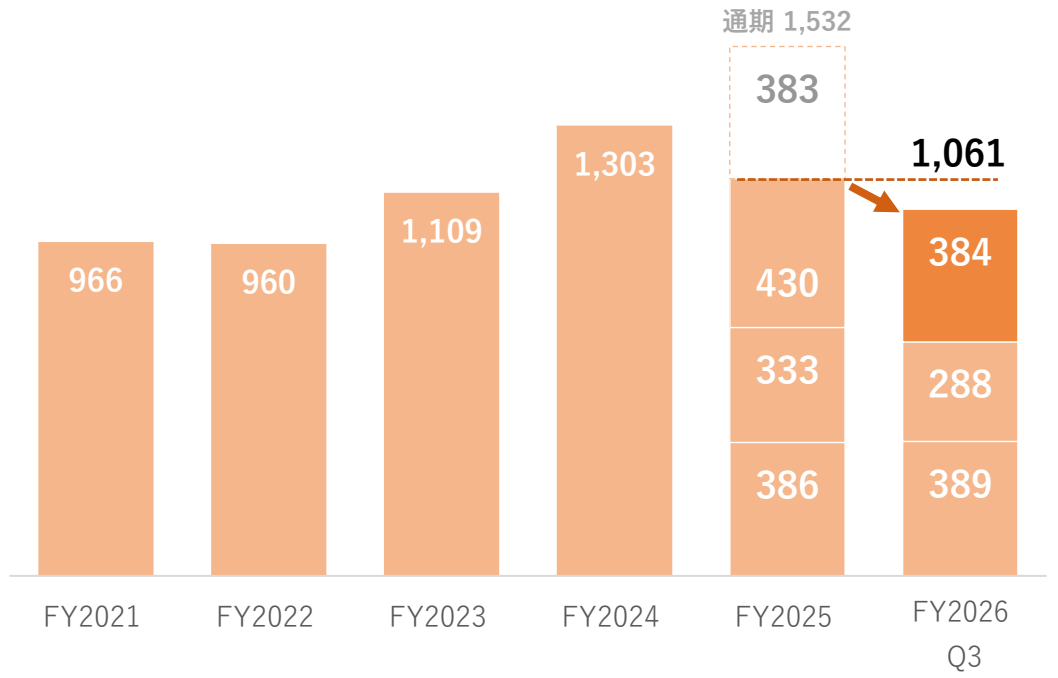
Q3累計 前年同期比 **+33.5%**
1,353 → 1,806



SECURE AC　導入件数

（件）

Q3累計 前年同期比 **△7.7%**
1,149 → 1,061



© SECURE Inc. All Rights Reserved.

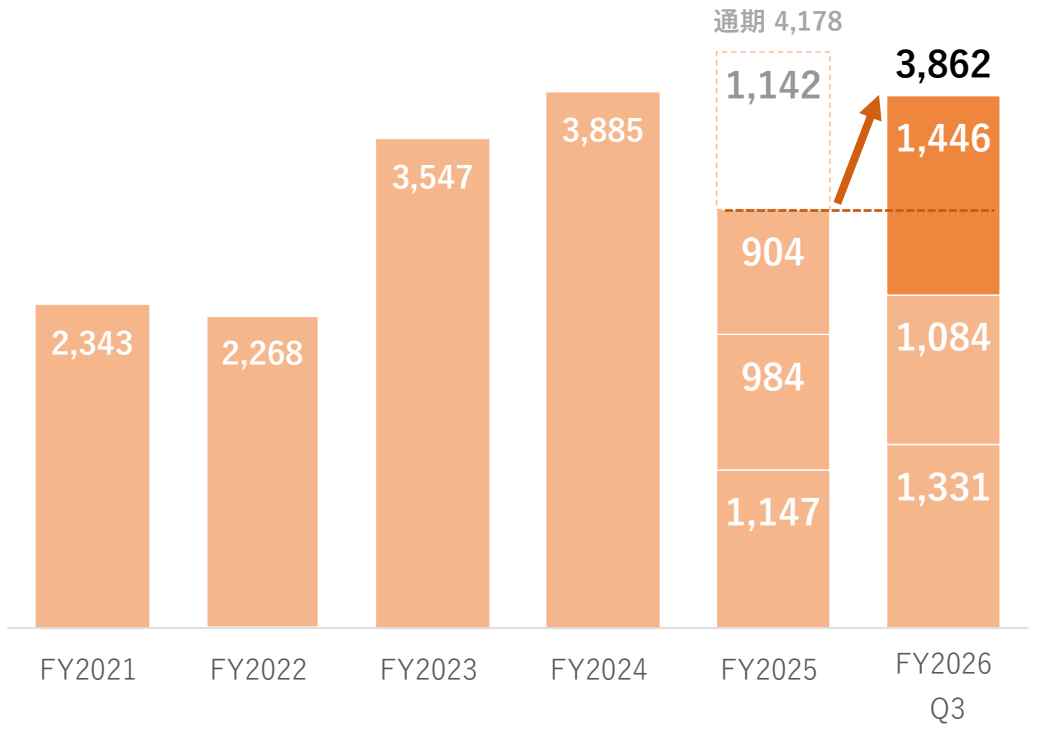
「SECURE VS」業績推移

Q２に続き物流施設・工場・大型商業施設等の大型案件が寄与し、前年同期比＋27.2%増収で着地
導入件数は横ばいだが、前年の特殊小規模案件の反動によるものであり、マーケットは引き続き堅調

売上高

(百万円)

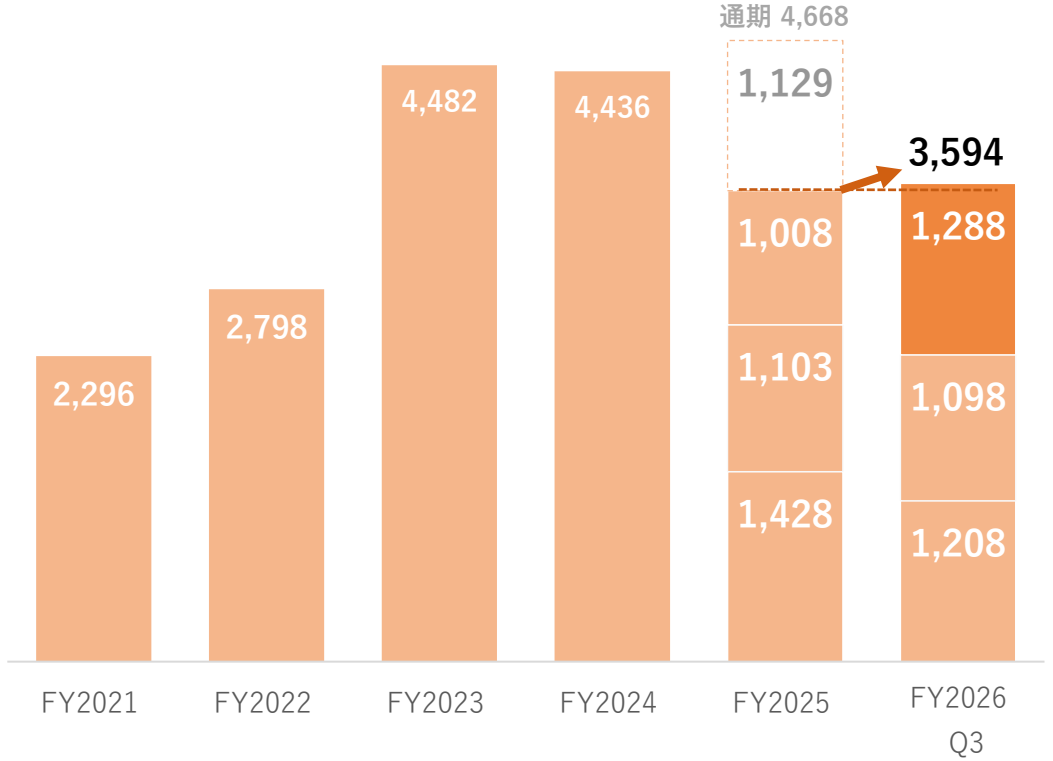
Q3累計 前年同期比 +27.2%
3,035 → 3,862



SECURE VS　導入件数

(件)

Q3累計 前年同期比 +1.6%
3,539 → 3,594

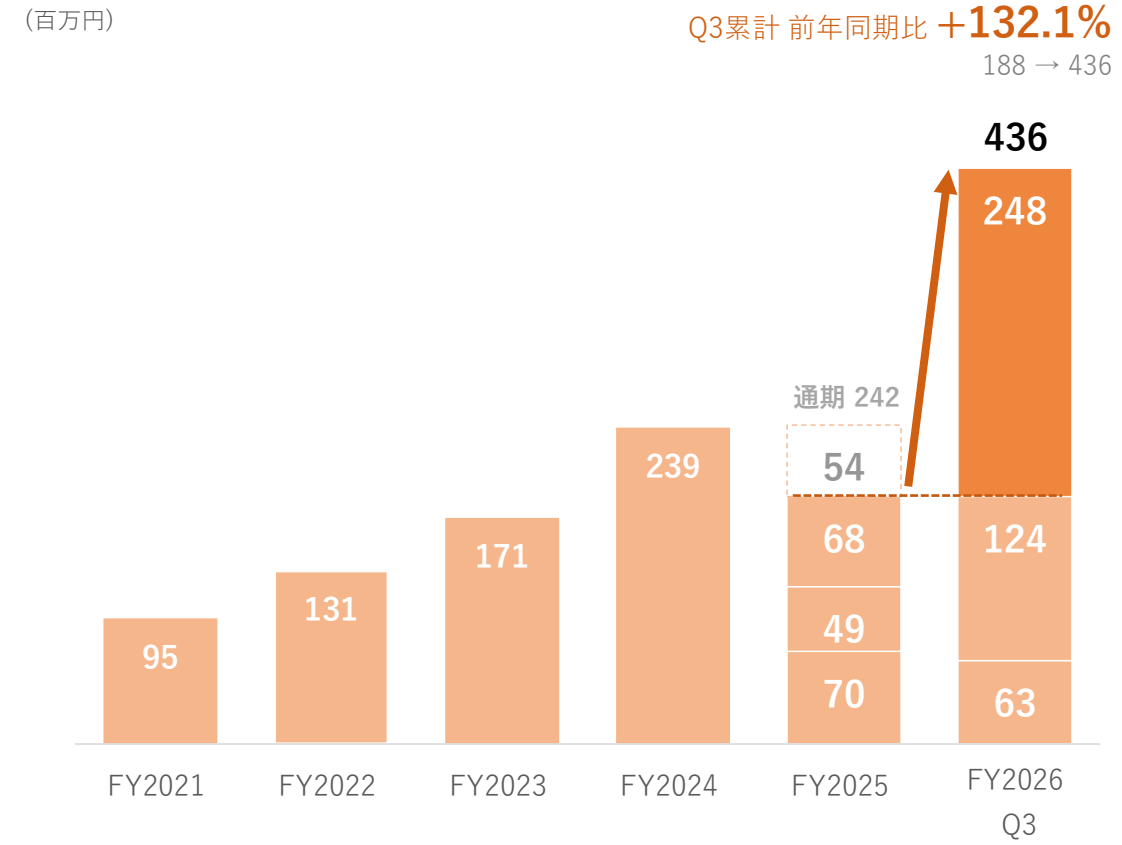


© SECURE Inc. All Rights Reserved.

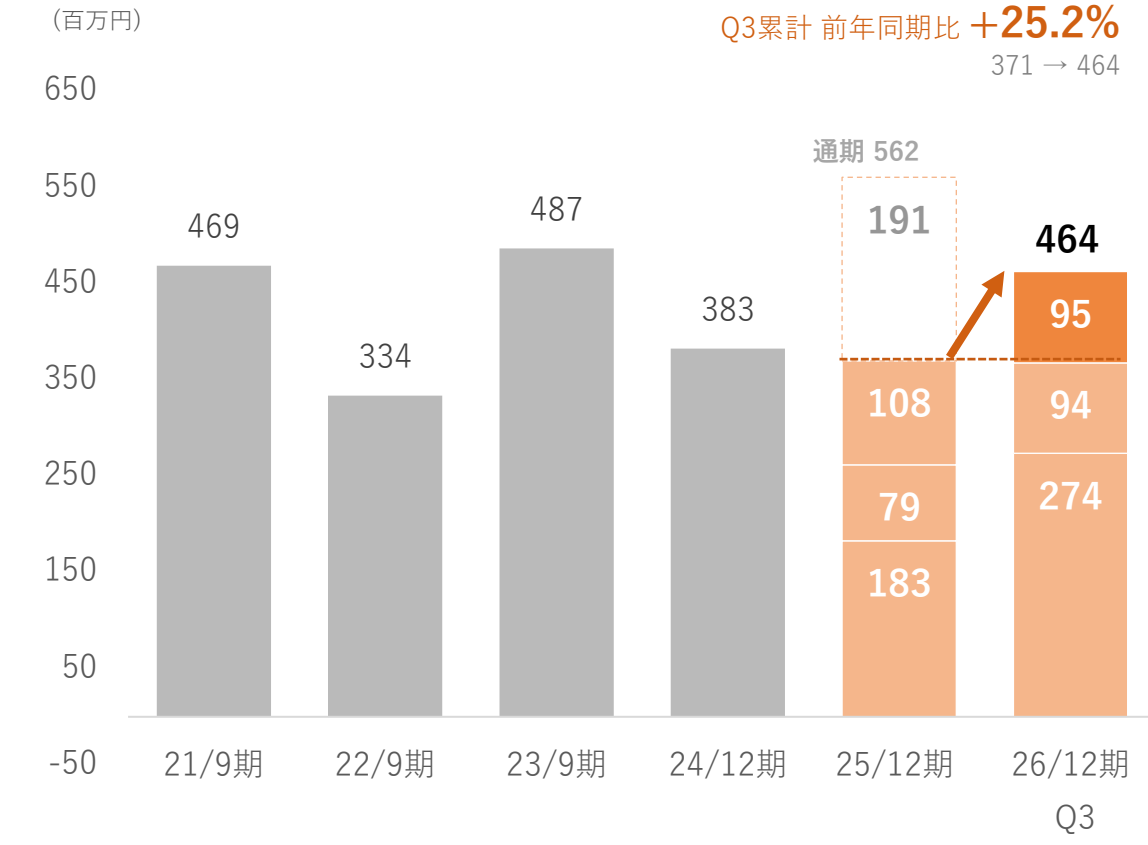
「SECURE Analytics/その他、SECURE ES」業績推移

AnalyticsはTTGの連結開始により前年同期比＋132.1%増収での着地
SECURE ESは前年Q3以降のメディアシステムの取込みもあり増収で着地

SECURE Analytics / その他　売上高



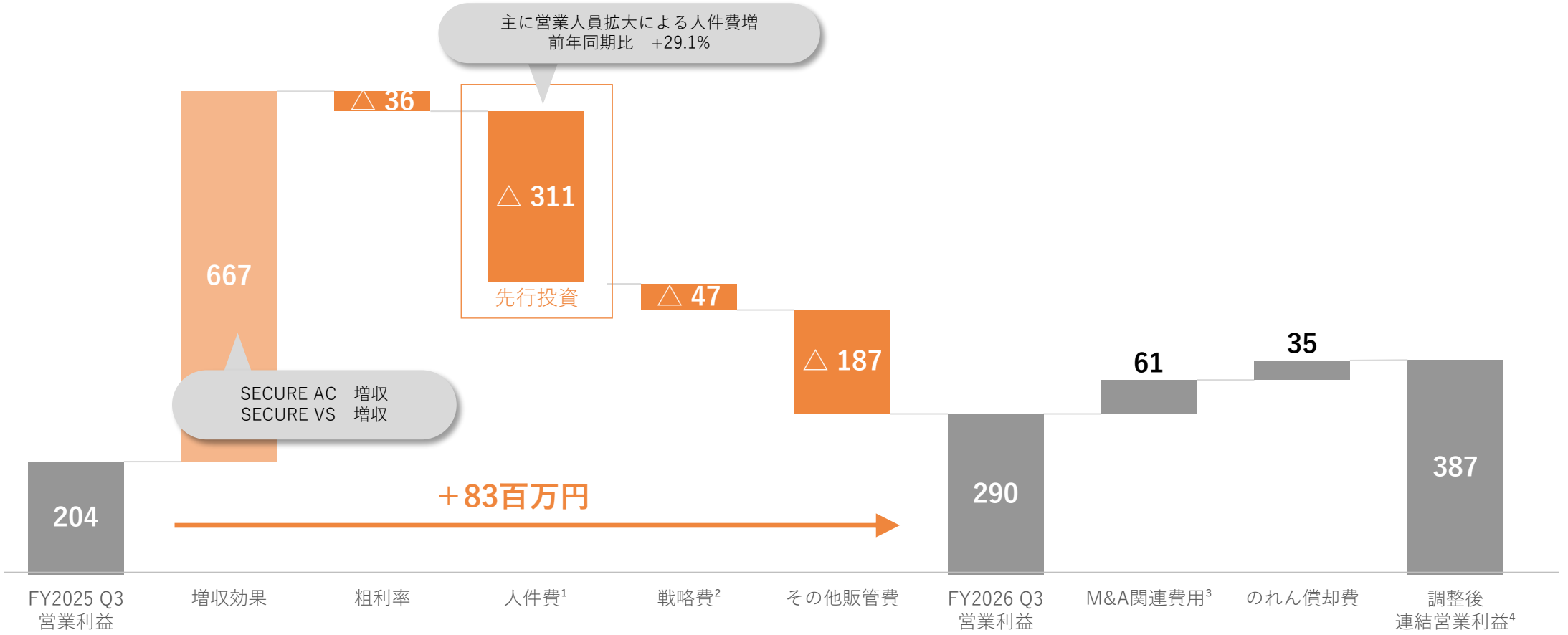
SECURE ES 売上高



© SECURE Inc. All Rights Reserved.

営業利益増減要因分析

先行投資である人件費を中心に販管費が増額も、増収効果により増益で着地
のれん償却費、M&A関連費用の影響を除く調整後営業利益は387百万円での着地



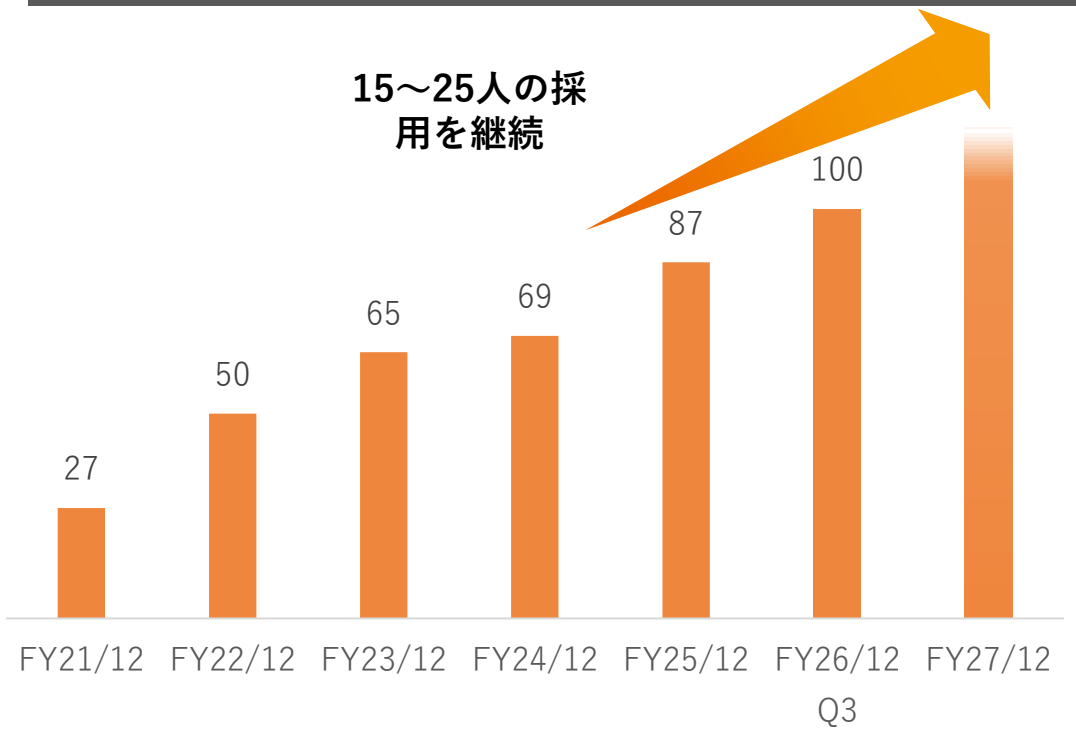
※1 人件費 = 給与・賞与・法定福利費等
※2 戦略費 = 展示会関連費用等
※3 M&A関連費用 = アドバイザリー費用等 + 業務委託費
※4 調整後連結営業利益 = 連結営業利益 + M&A関連費用 + のれん償却費

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

事業の進捗状況　セールス・マーケティングの強化

新規採用は前期末比で13名の純増となり、セールス・マーケティング人員100名体制を構築
今後も引き続き新規採用は継続しつつ、AI活用により生産性・スキルの向上を図る

セールス・マーケティング人員数推移



セールス人員の成熟化までは約1.5～2年先んじて採用を行い、業績拡大に繋げる

拠点拡大



- 22年7月名古屋オフィス開設（現 名古屋営業所）
- 23年1月大宮・横浜オフィス開設
- 23年4月広島オフィス開設
- 24年7月札幌オフィス開設
- 25年4月仙台オフィス開設

基盤強化



- マーケティング活動の強化
- Security System Labにおける独自の教育制度
- 採用力の強化

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

03

業績見通し
FY2026

01　会社概要
02　業績ハイライト（FY2026 Q3）
03　業績見通し（FY2026）
04　フィジカルAIインフラカンパニーへ
05　Appendix

業績予想の修正　2026年12月期

TTG（4月に子会社化）、テスコムジャパン（7月に子会社化）、日東通信（12月に子会社化予定）の影響を業績に反映
親会社株主に帰属する当期純利益は各社の繰延税金資産の回収可能性について検討を継続しており、合理的な見積もりが可能となった時点で速やかに開示を予定

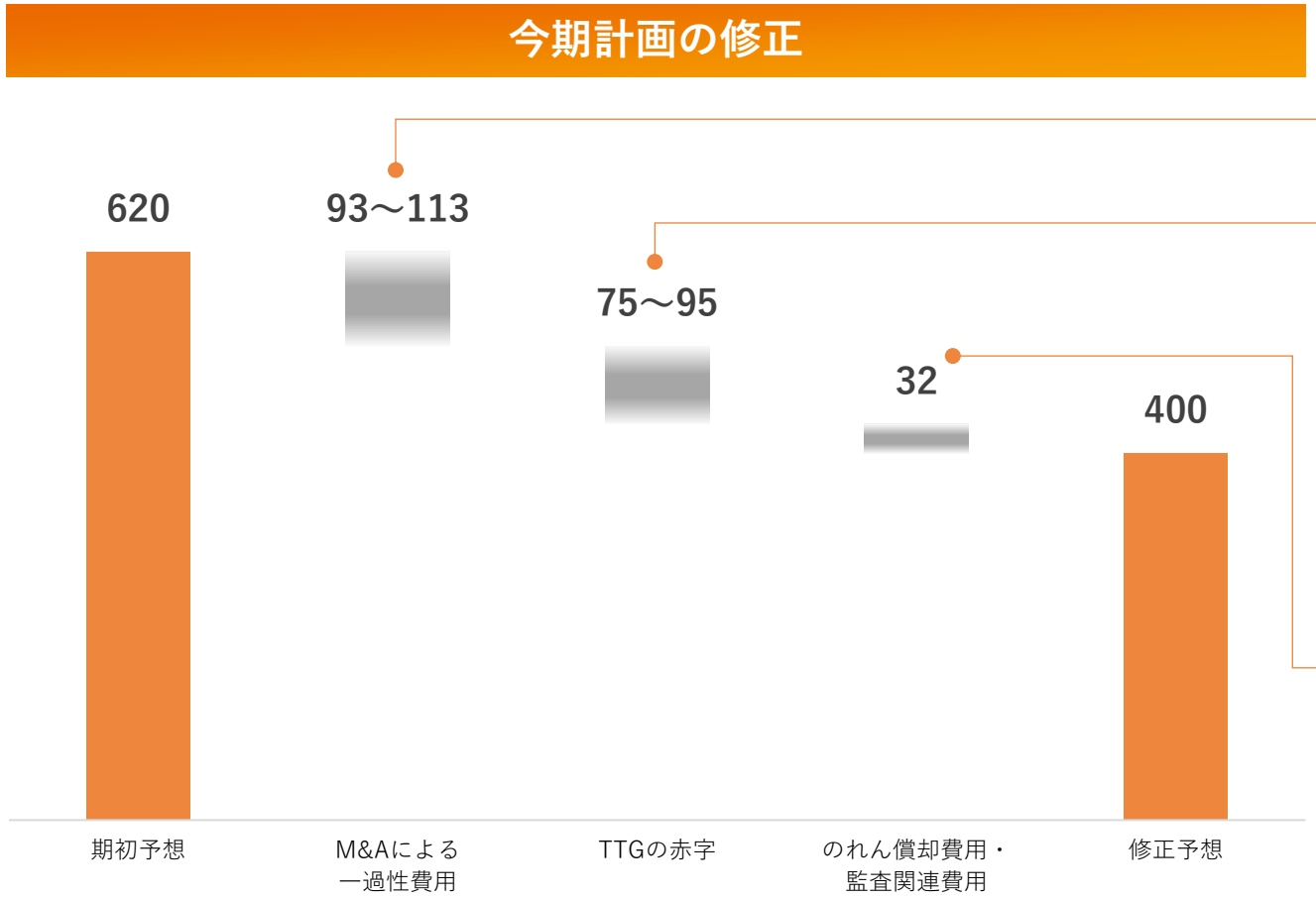
（百万円）	FY2025 実績	FY2026 Q3実績	FY2026業績予想 修正前*	FY2026業績予想 修正後**	修正額	修正後対前期比 増減率
売上高	6,840	6,570	8,206	**9,200**	＋994	＋34.5%
SECURE AC（入退室管理システム）	1,857	1,806	-	-	-	-
SECURE VS（監視カメラシステム）	4,178	3,862	-	-	-	-
SECURE analytics（画像解析サービス /その他）	242	436	-	-	-	-
SECURE analytics（画像解析サービス /その他）	562	464	-	-	-	-
営業利益	326	290	620	**400**	△220	+22.7%
営業利益率（%）	4.8%	4.4%	7.6%	**4.3%**	-	-
経常利益	299	269	600	**365**	△235	+21.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	187	124	410	**未定**	-	-

*修正前業績予想は2026年2月13に発表　/　**修正後業績予想は2026年11月12日に発表

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

2026年12月期営業利益の修正要因について

2026年12月期営業利益計画を下方修正
期初予想と比較して未達の着地となるも、多くはM&Aに起因する一過性費用や投資フェーズにあるTTG赤字の影響



TTG, テスコムジャパン、日東通信のM&Aに関する各種費用（手数料・DD費用等）：93～113百万円

- **2027年12月期は剥落予定**

投資フェーズにあるTTGの赤字：75～95百万円

- **2027年12月期には赤字縮小予定**
- **43.8%分は非支配株主持分**
- **単月黒字を目指す**

M&Aにより新たに発生したのれん償却費用・監査関連費用合計：32百万円

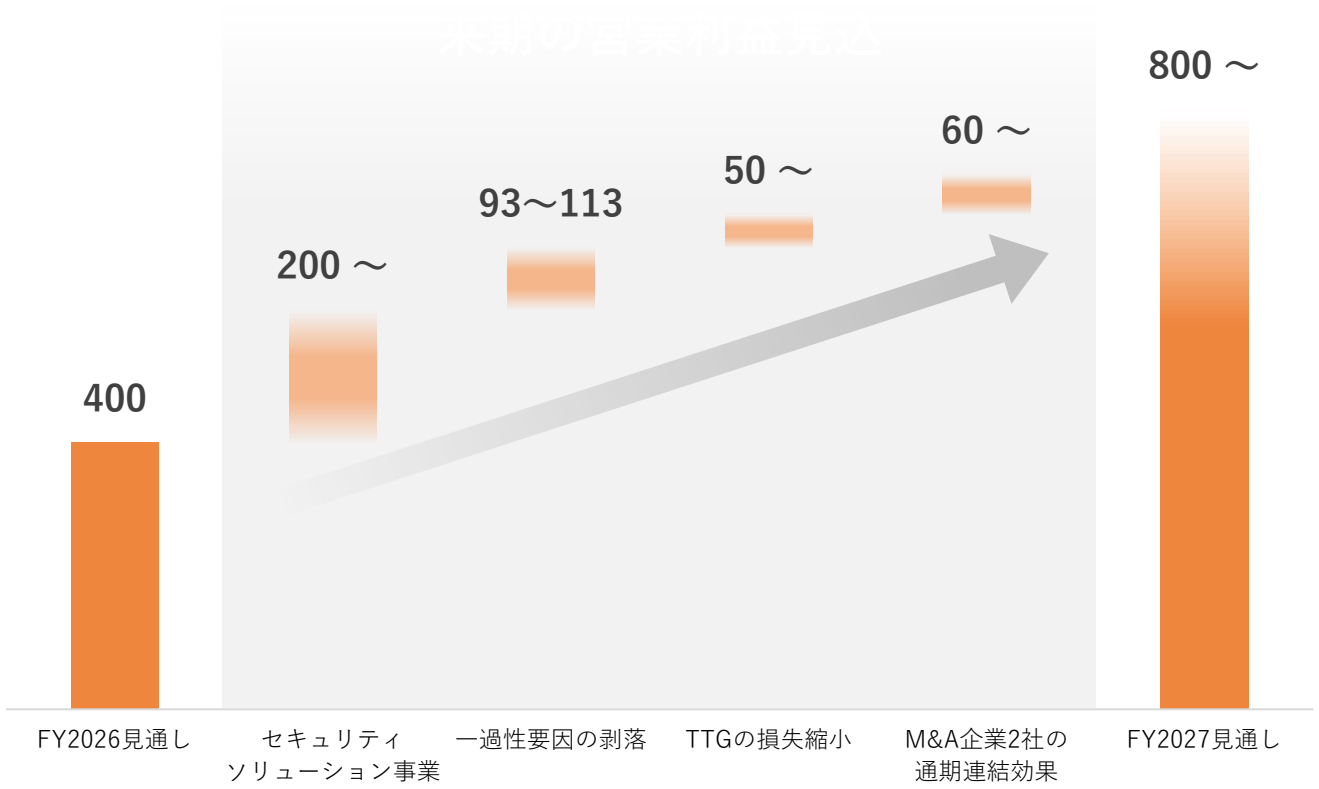
- **2027年12月期以降も一定期間にわたり計上**

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

2027年12月期業績見通しについて

2027年12月期は一過性要因の剥落やセキュリティソリューション事業のオーガニック成長に加え、
TTGの損失縮小、2026年12期にM&Aした企業の通期連結寄与により、営業利益で8億円以上の達成を目指す

来期の営業利益見込



- セキュリティソリューション事業におけるオーガニックの事業成長
- TTGの損失縮小及び今期にM&Aした2社（テスコム・日東通信）の業績が通期連結されることによる貢献

2027年12月期は営業利益で8億円以上を目指す

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

04

01　会社概要
02　業績ハイライト（FY2026 Q3）
03　業績見通し（FY2026）
04　フィジカルAIインフラカンパニーへ
05　Appendix

フィジカルAIインフラカンパニーへ

フィジカルAIインフラカンパニーへ

物理セキュリティで培った実装力と新たにM&A・資本業務提携で獲得した機能を基盤に、
2027年12月期以降、**フィジカルAIインフラカンパニー**へと変化・飛躍を図る

出発点｜既存の強み

**物理セキュリティの
ソリューションカンパニー**



ソフトウェア
映像管理・分析・クラウドサービス

ハードウェア
カメラ・センサー・IoT機器

AI技術
行動認識・異常検知

M&A・資本業務提携による事業基盤の拡充

**2024 - 2026年にかけて、
M&A 5件・資本業務提携2件を実施、
フィジカルAIの実装に必要な機能を
獲得・強化**

M&A実績	資本業務提携
TTG / TESCOM CCTV SYSTEM SOLUTION	BUFFALO
JTN / MEDIA SYSTEM メディアシステム	RICOH
Idealize Technology 日東通信株式会社 Switch to the Next Generation Network	

目指す姿

フィジカルAI
インフラカンパニーへ

**AI×ハードウェア×現場実装により
社会・産業のあらゆる物理空間にAIを
実装するために必要な要素を提供**



フィジカルAIが求められている社会的背景

人手不足による現場の省人化・
効率化ニーズの拡大

適用領域の例 小売 介護 医療 飲食 警備 …

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

セキュアが考えるフィジカルAI市場の構造と社会課題

現実空間をカメラで認識し、AIによる解析・判断を通じてロボットや機械を動かす「フィジカルAI」
今後は、**カメラシステムがOS的役割を担うことから、物理セキュリティ構築の技術・ノウハウや店舗無人化等の実績**を活かし、**フィジカルAIインフラカンパニー**として深刻化する労働供給不足など社会課題の解決を目指す



フィジカルAIで解決を目指す社会課題

全国の労働供給不足（予測）

2030年 約 **342** 万人 ▶ 2040年 約 **1,100** 万人

関連する現場の職種別労働供給不足（予測）

引用:『未来予測2040』（リクルートワークス研究所）

職種	2030年	2040年
商品販売（小売・店舗）	約 40.2 万人	約 108.9 万人
介護サービス（介護施設）	約 21.0 万人	約 58.0 万人
接客給仕・飲食物	約 17.9 万人	約 56.6 万人

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

フィジカルAIインフラカンパニーへのトランスフォーメーション

現在は物理セキュリティ及びリテールAIへの展開を行うが、中長期的にはより広い領域への事業展開を目指す
事業展開に必要な共通基盤であるインフラエンジニアリング機能のリソース確保と内製化を図り、事業全体の収益力も強化

物理セキュリティ

セキュリティソリューション



- 監視カメラ・入退室管理
- AI画像認識による異常検知

警備DX／ロボット





フィジカルAIの活用領域



リテールAI

- 無人決済
- 店舗運営の省人化
- オペレーション効率化



介護・医療



工場・製造現場



物流施設

現場実装を支える共通基盤

インフラエンジニアリング



- 現場への実装
- インストレーション

将来的に人手不足が予想される分野
内製化による収益力強化

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

リテールAIの事業展開例

当社が建物全体に導入したカメラ・センターで、「どこで」「なにか」起きているかを把握
「カメラ・センサー」と「人」、そして、「フィジカルAI」をつなぐ役割を担う

STEP ①
無人店舗ソリューション



SECURE
AI STORE LAB 2.0



TOUCH TO GO

セキュア、TTGのタッグで様々な規模・
業種にアプローチが可能。
小売店舗の無人化・省人化に関する
ソリューションを提供。

STEP ②
（カメラ+インカム）× 人への実装



アルバイトなどの手荷物検査を自動化
異常時のみの通知で管理者の手間を削減



接客に際して、お客様からの質問を
検知。回答などについてインカム
から支援。（現在開発中）



STEP③
フィジカルAIとの連携



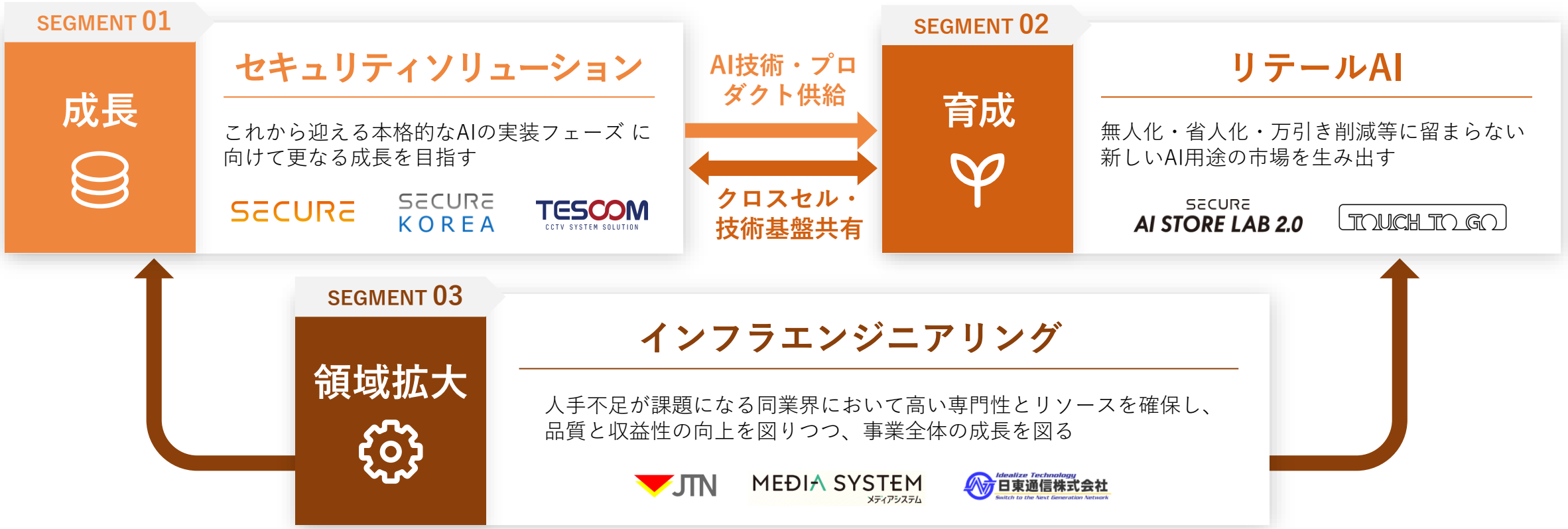
例）

- 棚の前の決まった位置で、台車から商品を取り、空き棚に陳列。
- 夜間に届いた荷物を、売り場の近くまで運搬する。

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

2027年12月期から開示予定のセグメント

2027年以降は、セキュリティソリューション、リテールAI、インフラエンジニアリングの3セグメントで開示する方針
セキュリティソリューションで更なる成長を実現し、その収益基盤のもと、リテールAIを次の成長ドライバーへと育成
インフラエンジニアリングの内製化により、収益領域の拡大・成長を図る



3つのセグメントがシナジーを発揮し高め合うことで、唯一無二のフィジカルAIインフラカンパニーを目指す

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

M&A実績（JTN、日東通信）

JTN、日東通信の2社のM&Aを通じて
設備施工やネットワークインフラに関する専門性・提供体制を拡充

2024年1月 完全子会社化

株式会社ジェイ・ティー・エヌ

会社概要

所在地	神奈川県横浜市中区初音町1-7-1
設立	2001年10月
従業員数	16名（2026年9月末時点）
事業内容	電気工事・電気通信工事、監視カメラ・入退室管理・LAN等の設備工事

M&Aの目的・獲得する強み

- **専門的な施工技術・ノウハウの獲得**
  監視カメラ・入退室管理・通信設備の施工対応力を強化
- **施工人材の確保・施工体制の強化**
  専門人材をグループ内に取り込み、施工能力を拡充

現状及び今後の方針

SECURE ESの中核を構成しており、堅調に成長

2026年12月 株式譲渡実行予定

日東通信株式会社

会社概要

所在地	宮城県仙台市青葉区堤町3-1-15
設立	1971年6月
従業員数	108名（2026年9月末時点）
事業内容	通信システムの設計・構築、電気通信工事、通信機器販売・保守

M&Aの目的・獲得する強み

- **東北地域の施工・保守体制の拡充**
  主要都市をカバーする拠点網を獲得し、対応エリアを拡大
- **専門人材・技術力の強化**
  有資格者や施工実績を取り込み、技術力を高める

現状及び今後の方針

10月13日に子会社化を発表／12月18日に譲渡実行予定

設備施工・ネットワークインフラの専門性と提供体制を拡充し、フィジカルAIの社会実装を支える基盤を強化

電気・通信設備の設計・施工から保守まで、物理空間へのAI導入に必要な機能を強化

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

M&A実績（メディアシステム、テスコムジャパン）

メディアシステムは官公庁・公共領域への販路拡大に、
テスコムジャパンは柔軟かつ最適なフィジカルAI実装に向けたハードウェア設計・開発力獲得に貢献

2025年4月 完全子会社化

株式会社メディアシステム

会社概要

所在地	福島県福島市岡部字岡部2-11
設立	1993年10月
従業員数	9名（2026年9月末時点）
事業内容	入退室管理・監視・AI顔認証・AI画像解析システム、音響・映像システム、放送・通信システム等 各種システムの構築・設計・施工・保守

M&Aの目的・獲得する強み

- **官公庁・公共領域への販路獲得**
  法務省・警察・自治体等への納入実績を活用
- **公共領域での高度な案件対応力**
  設計・施工ノウハウと専門資格者の知見を獲得

現状及び今後の方針

SECURE ESを構成しており、堅調に成長

2026年7月 完全子会社化

株式会社テスコムジャパン

会社概要

所在地	京都府京都市山科区勧修寺東金ヶ崎町45
設立	2000年8月22日
従業員数	39名（2026年9月末時点）
事業内容	CCTV機器・セキュリティ機器・電子応用機器の製造・販売 電子回路設計・機構設計・各種金型設計・基板実装・組立

M&Aの目的・獲得する強み

- **ハードウェアの設計・製造機能の獲得**
  回路・機構・金型設計から基板実装・組立まで対応
- **顧客・現場に応じた製品開発力の強化**
  OEM/ODMなどを活かし個別ニーズへの対応力を拡充

現状及び今後の方針

シナジー発揮に向けSECURE・TTGにおける複数のプロジェクト案件との連携を実施

官公庁・公共領域への販路を拡大

既存の民間企業向け販路に公共領域の顧客接点を追加

フィジカルAIに必要なハードウェア開発力を強化

現場・顧客ごとの要求に応じたAIシステム実装を強化

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

M&A実績（TOUCH TO GO）

既存のAI Store事業と無人決済技術・顧客基盤を組み合わせ、
小売店舗の省人化・効率化を支援するソリューションの提供を加速

2026年4月 子会社化（56%取得）

株式会社TOUCH TO GO

会社概要

所在地	東京都新宿区西新宿2-6-1新宿住友ビル19階
設立	2019年7月1日
従業員数	53人（2026年9月末時点）
事業内容	無人決済・省人化システムの企画・開発・販売・保守
株主構成	株式会社セキュア 56.2% JR東日本スタートアップ株式会社 20.0% 株式会社ファミリーマート、東芝テック株式会社、 グローリー株式会社の3社で合計23.8%

現状及び今後の方針

PMIに関しては想定対比遅れが見られるも
引き続きシナジーの発揮に向けて取り組みを継続

M&Aの目的・期待するシナジー

① リテールAIソリューションの強化

既存AI Storeと無人決済技術を組み合わせ、店舗形態に応じた提案力を拡充

TTG-SENSE



棚1本から始められ店舗区画に合わせて自由にレイアウト設計可能な次世代型・省人化スマートストア

TTG-MONSTAR



「券売機」「セルフスキャンレジ」「時間課金モード」の1台3役のクラウドPOS型セルフオーダー決済端末

② 顧客基盤の相互活用による販路拡大

セキュア既存顧客とTTGの導入先を相互活用し、クロスセルを推進

③ グループ経営資源の活用と収益性改善

施工・保守体制、開発・製造ノウハウ、販売網の連携を推進

リテールAIのソリューション提供力を強化し、フィジカルAIの社会実装を加速

小売店舗の無人化・省人化を通じ、人手不足の解消と生産性向上に貢献

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

資本業務提携（株式会社バッファロー及びリコージャパン株式会社）

株式会社バッファロー様とは特にハードウェアの調達力に関して、
リコージャパン株式会社様とは全国規模への販路拡大とデータ活用について連携

2025年2月 資本業務提携を締結（保有比率12.9%）

株式会社バッファロー（旧メルコHD）

提携先の概要

事業・強み	IT周辺機器・ネットワーク機器の製品力／調達力
提携の位置づけ	現行製品と業務プロセスを組み合わせ、短期のコストシナジーと中長期の事業連携を追求
主な機能	共同購買、品質管理、施工・設置、サポート

資本業務提携の目的

- **共同購買による調達力強化・原価最適化**
  購買チャネルを活用し、機器・部材の調達を効率化
- **業務集約によるコスト・運用効率改善**
  施工・設置やコンタクトセンター等の機能を連携

現状及び今後の方針

共同購買により、HDDをはじめとする機器・部材の安定的な確保が可能に。コンタクトセンターの連携、共同開発について継続実施中。

調達力の向上とコスト競争力の強化

供給の安定化・購買効率化とオペレーション改善

2026年3月 資本業務提携を締結（保有比率 9.1%）

リコージャパン株式会社

提携先の概要

事業・強み	創業以来ワークプレイスに向けた様々なソリューションを提供してきたノウハウ及び全国的な営業・サービス網
提携の位置づけ	フィジカルセキュリティの販路拡大 同社のデジタルプラットフォーム RICOH Spacesとの連携等
顧客基盤	全国約100万事業所

資本業務提携の目的

- **全国の顧客・販売網を通じた販路拡大**
  中小企業から大企業まで新規顧客層へ提案を拡張
- **大型案件の開拓と共同ソリューション開発**
  データ活用とAI分析によるソリューション創出

現状及び今後の方針

専任営業体制を発足、段階的な全国展開へ
2030年度：協業による年間売上100億円を目標

全国規模の販路・顧客接点を獲得

フィジカルAI関連サービスを全国へ展開する基盤

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

05

Appendix

01　会社概要
02　業績ハイライト（FY2026 Q3）
03　業績見通し（FY2026）
04　フィジカルAIのインフラカンパニーへ
05　Appendix



1

SECURE AC

入退室管理システム

オフィスや店舗・工場等にカードリーダーや指紋・顔認証などの入退室管理システムを提供。クラウド型のサービスではオフィスの利用状況や混雑度、社員の健康管理も把握可能。勤怠管理や在籍管理等も行える。

主な導入先

（オフィス）　（商業施設）　（工場）

主にオフィスへ導入

利用シーン

10-1,000名

オフィスセキュリティやフィットネスなどでの会員管理にも利用可能

特徴

段階的な拡張やサテライトオフィス等の多拠点管理にも優れている

クラウド	オンプレ
4.2%	95.8%

（FY2025）

クラウド強化中

© SECURE Inc. All Rights Reserved.



2

SECURE VS

監視カメラシステム

数台の小規模システムから、10万台の超大規模システムまで、顧客ニーズに応じて様々なデバイスと顔認証等のAI（画像認識）を組み合わせて最適な監視カメラシステムをオンプレミス・クラウドで提供。

主な導入先

（オフィス）　（商業施設）　（工場）

主に商業施設へ導入

利用シーン

小売店での万引き対策やビルや工場等のセキュリティ対策

特徴

最大10万台超

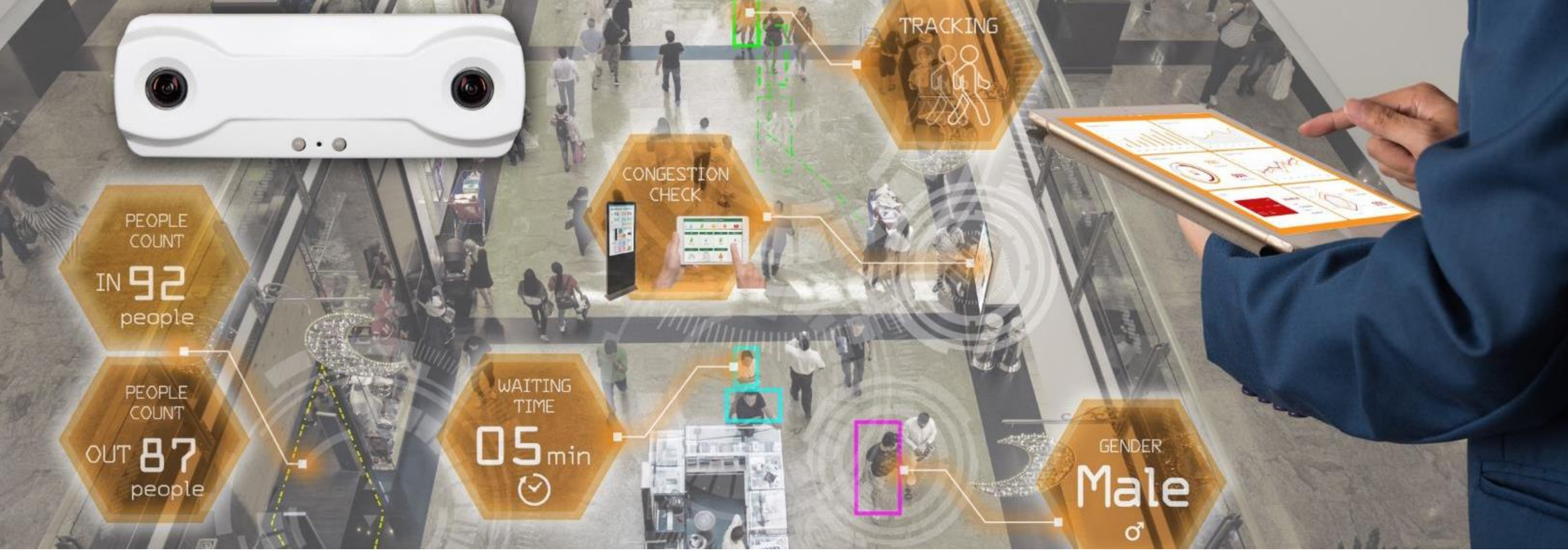
カメラ台数４台程度の小規模システムから10万台超の大規模システムまで運用性の高いシステムを構築・提案

クラウド	オンプレ
2.1%	97.9%

（FY2025）

オンプレ主体

© SECURE Inc. All Rights Reserved.



3

SECURE Analytics

画像解析ソリューション

AI（画像認識）技術を用いて、商業施設やイベント会場、避難所などの混雑度を分析、予測するソリューションを提供。API連携で施設の混雑状況を外部掲示するなど柔軟な運用にも対応。

主な導入先

（オフィス）　（商業施設）　（工場）

主に商業施設へ導入

利用シーン

施設内の混雑状況をリアルタイムでWebサイトや店頭サイネージで表示

特徴

SaaSモデル

1台から利用可能なサブスクモデル
監視カメラの画像を流用することも可能

クラウド	オンプレ
100%	0%

（FY2025）

クラウド100%

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

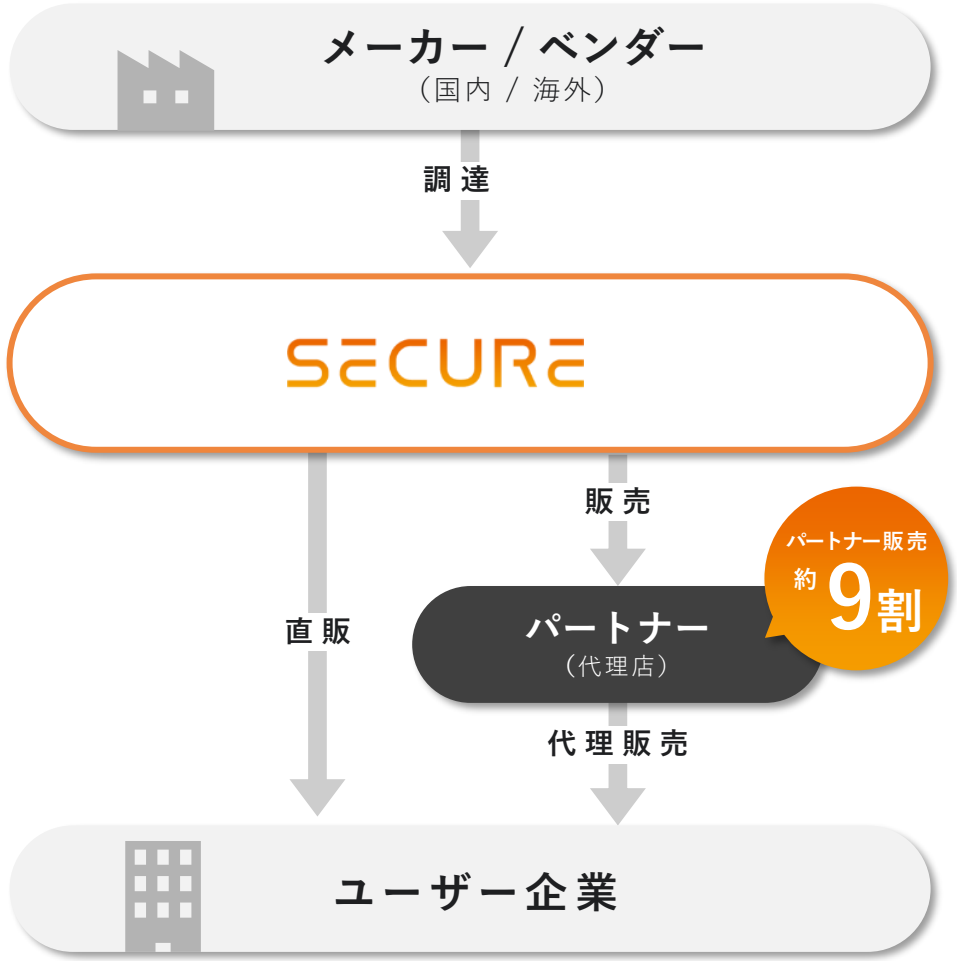
（参考資料）各種サービスの詳細

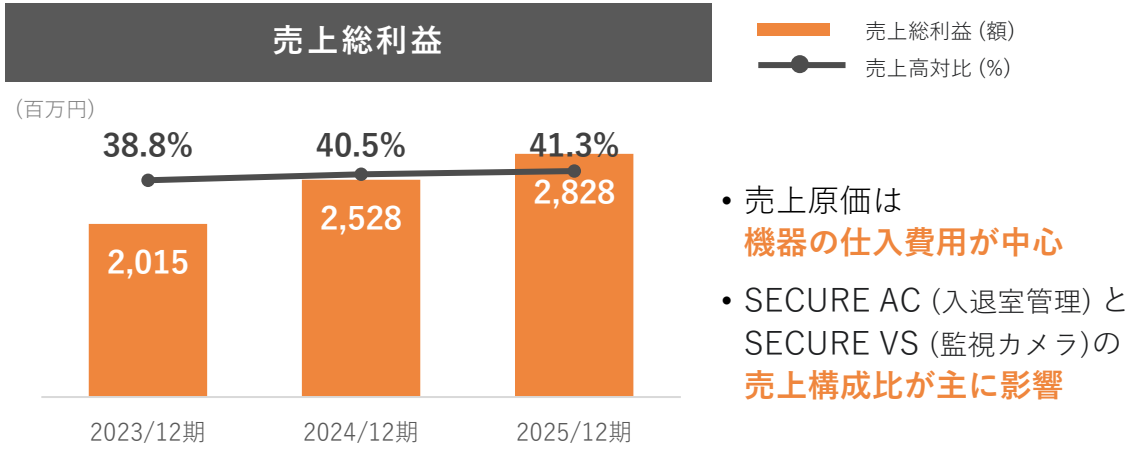
該当事業	サービス名	詳細
1 AC（Access Control）	SECURE AC	**IPベースのオンプレミス型入退室管理システム**。顔・指紋・カード・モバイルなど多様なID認証デバイスをサーバーで一元管理し、小規模から大規模まで柔軟に拡張可能。さらに、ビル管理・警備システムとの連動に加え、APIを介して勤怠管理をはじめとする社内システムや他社システムとも連携でき、施設のセキュリティレベルに応じたフレキシブルな運用を支援。
1 AC（Access Control）	SECURE AC Cloud	セキュリティレベルを強化しつつ、利便性高く運用できるSaaS型の**クラウド入退室管理システム**。フリーアドレスやサテライトオフィスなど新しいワークスタイルに対応し、AI（画像認識）による事前登録者の入退室管理に加え、勤怠管理・在室管理など幅広い管理機能を提供。さらに、測温による健康管理、オフィスの稼働状況／混雑度の可視化、勤怠状況の分析、AIを活用した表情分析など、多角的なデータ分析が可能。
2 VS（Video Surveillance）	SECURE VS	幅広い製品群でクライアントの課題を解決する、**オンプレミス型の監視カメラシステム**。アナログカメラ、IPカメラ、レコーダーなど多様なラインナップを揃え、規格の異なるカメラを統合して運用可能。カメラ4台の小規模構成から10万台超の大規模システムまで構築・運用が可能。さらに、転倒・うろつき・滞留・エリア侵入・混雑の把握、ゾーン/ラインカウント、プライバシーマスキング、ラインクロス等の検知が可能な専用デバイスも提供。
2 VS（Video Surveillance）	Xops	**「環境」と「従業員」をAIでリアルタイムに双方向接続する統合プラットフォーム**。カメラ映像をAI解析し、顔認識AIやIoT制御の検知・接点入力をトリガーにクラウドへデータを収集。発生した異常や検知結果を、Buddycomを通じてインカムへ音声（読上げ）・テキスト（チャット）・映像で一斉通知し、現場の状況共有と初動対応の迅速化に貢献。
2 VS（Video Surveillance）	SECURE VS Cloud	**クラウド型映像監視サービス**。SaaS型で初期費用を抑えて導入でき、カメラ・録画をクラウドで柔軟に拡張。多拠点をブラウザ/モバイルアプリで一括管理し、AI検知のイベント通知、AI検索で必要シーンを迅速抽出。権限設定やアラート履歴共有で運用を省力化し、現場対応を高速化。
2 VS（Video Surveillance）	FaceTracker	AI顔認証技術を採用した**監視カメラ用顔認証ソリューション**。登録人物、非登録人物を識別し、外部への通知と顔情報を管理する。顔認証によるログ検知によって勤怠管理にも応用可能。
3 Analytics	vemcount	AI（画像認識）専用ステレオカメラで施設の入退場者、**滞留人数を正確に計測するサービス**。ダッシュボードによる多拠点一括管理が可能。領域制限やアラート出力も可能。
3 Analytics	混雑COUNT	AI（画像認識）専用ステレオカメラによって人数を計測し、５段階のアイコン表示で**混雑具合を見える化するサービス**。一般利用者向けにWebサイトにて各種施設（温泉・商業施設等）の混雑具合を表示させたり、従業員向けに社内ポータルサイト等にてカフェ・食堂等の混雑度合をリアルタイムで表示することが可能。運営開始後は蓄積した混雑度合のデータを解析し、１週間の混雑度合予測も可能。

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

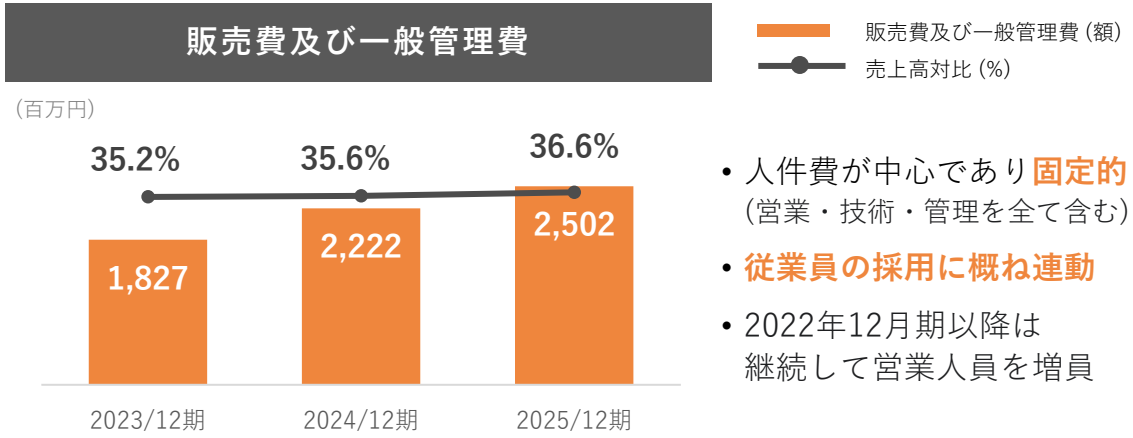
ビジネスモデル

売上の約9割をパートナー経由でユーザー企業に販売。売上はパートナーに対しての売上を計上
変動費として主にカメラ等の機器やシステムの原価が、固定費として人件費が多くを占める





- 売上原価は
  機器の仕入費用が中心
- SECURE AC（入退室管理）と
  SECURE VS（監視カメラ）の
  売上構成比が主に影響



- 人件費が中心であり**固定的**
  （営業・技術・管理を全て含む）
- **従業員の採用に概ね連動**
- 2022年12月期以降は
  継続して営業人員を増員

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

200社超の販売パートナー企業

企業におけるセキュリティニーズを瞬時に感知できる業種を中心に
オフィスデザイン会社・警備会社・OA機器販売会社等、幅広い**200社超の販売パートナー企業**（一部抜粋）
業界の大手企業が販売パートナーとなっており、大型案件の獲得にもつながる

ALSOK　RICOH　KDDI Biz Edge
UCHIDA　KOKUYO　SOLNET
LAC 株式会社ラック　JVCKENWOOD　CBC GROUP

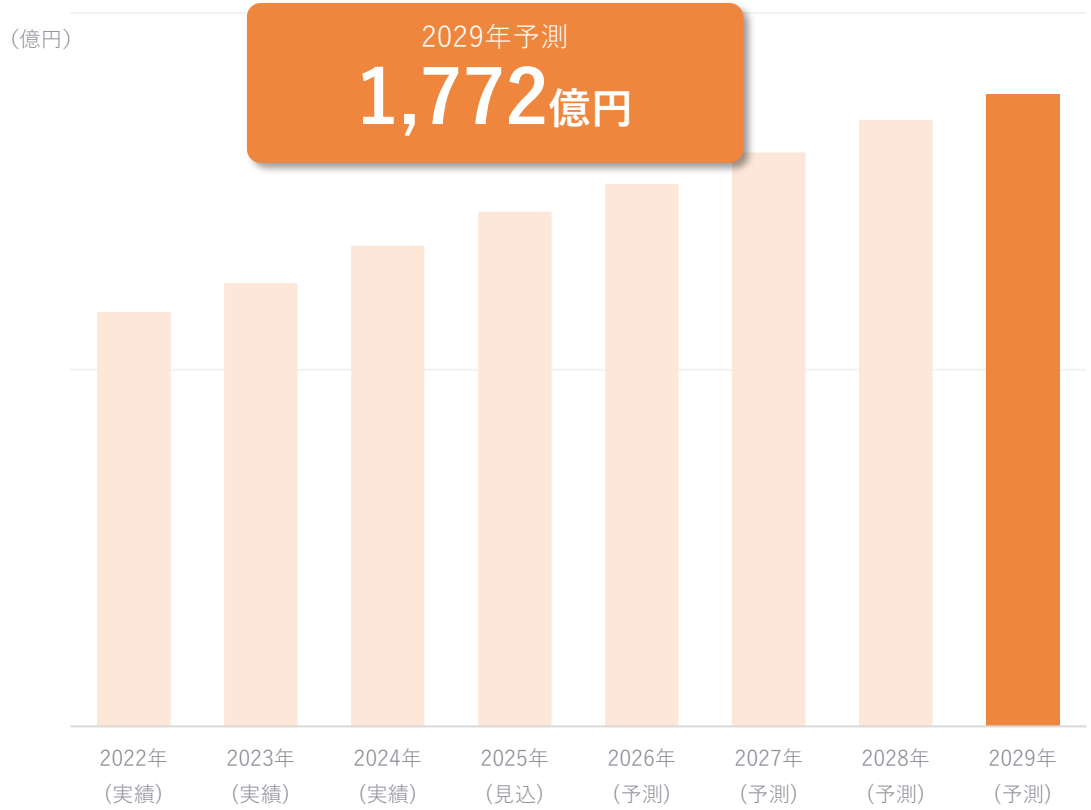
+200社以上

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

成長を続ける物理セキュリティ市場

監視カメラ市場（国内）、入退室管理市場（国内）ともに堅調に成長

監視カメラシステム市場（国内）



出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2025」

入退室管理市場（国内）

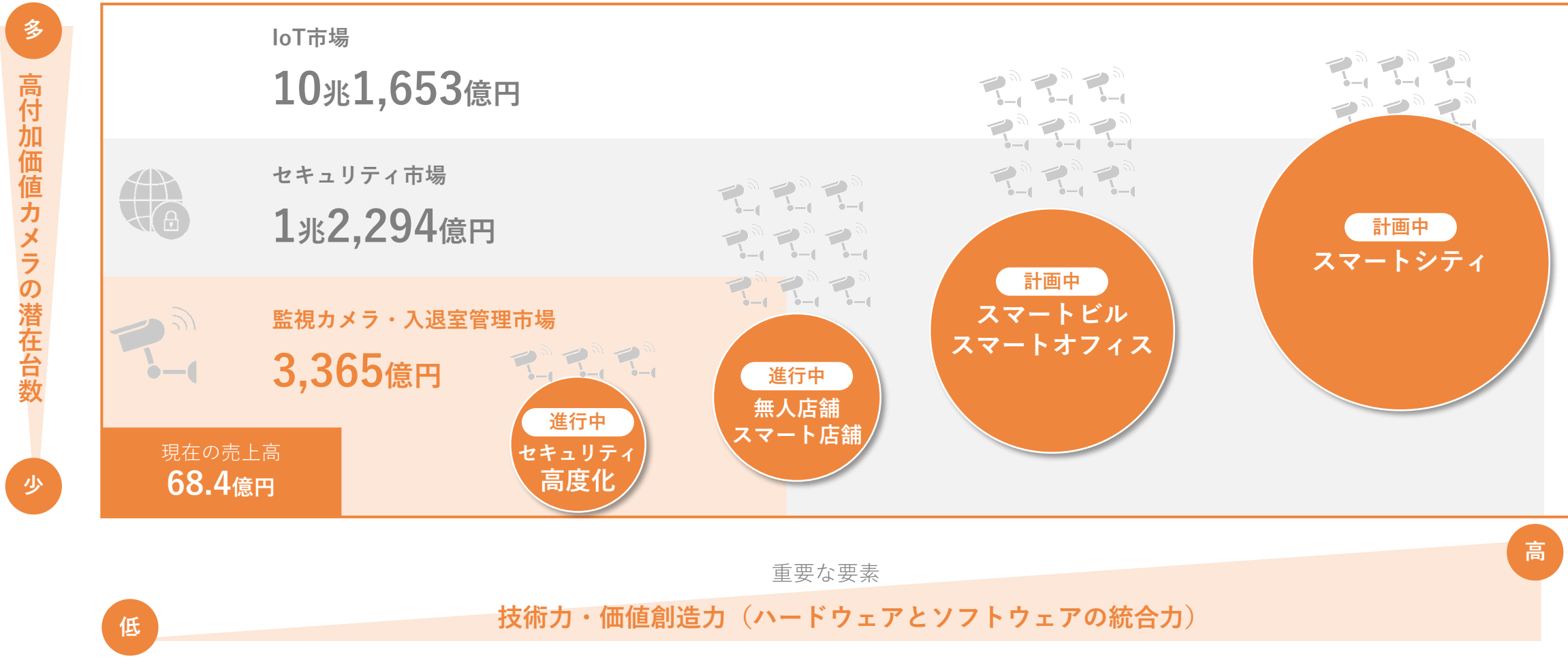


出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2025」

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

高度なセキュリティ・IoT社会に向けた市場展望

監視カメラ・入退室管理の市場は将来的にセキュリティ市場やIoT市場と融合し、高付加価値カメラが必須となり潜在台数が大きく増加する想定
多様化、複雑化するニーズには、ハードとソフトを統合したシステムを構築できる技術力が重要

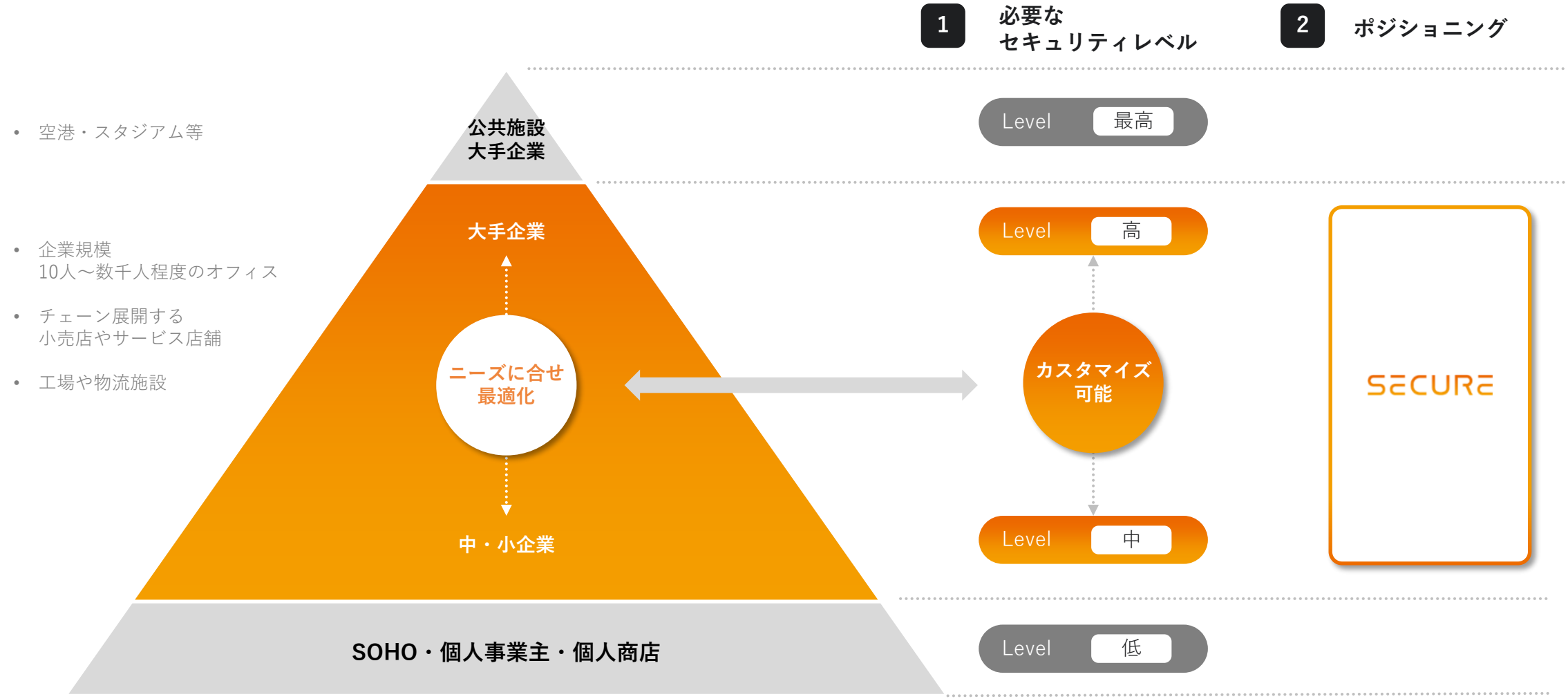


出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2025」およびIDC Japan「国内IoT市場予測」に基づき当社で作成

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

当社のターゲット領域

当社がメイン領域とする「中・小企業〜大手企業」の領域で事業を展開するには、様々なデバイスで
システムを構築＋一定のセキュリティレベルが必須であり、**単一IoT事業者では開拓できない領域**



© SECURE Inc. All Rights Reserved.

様々なセキュリティニーズ

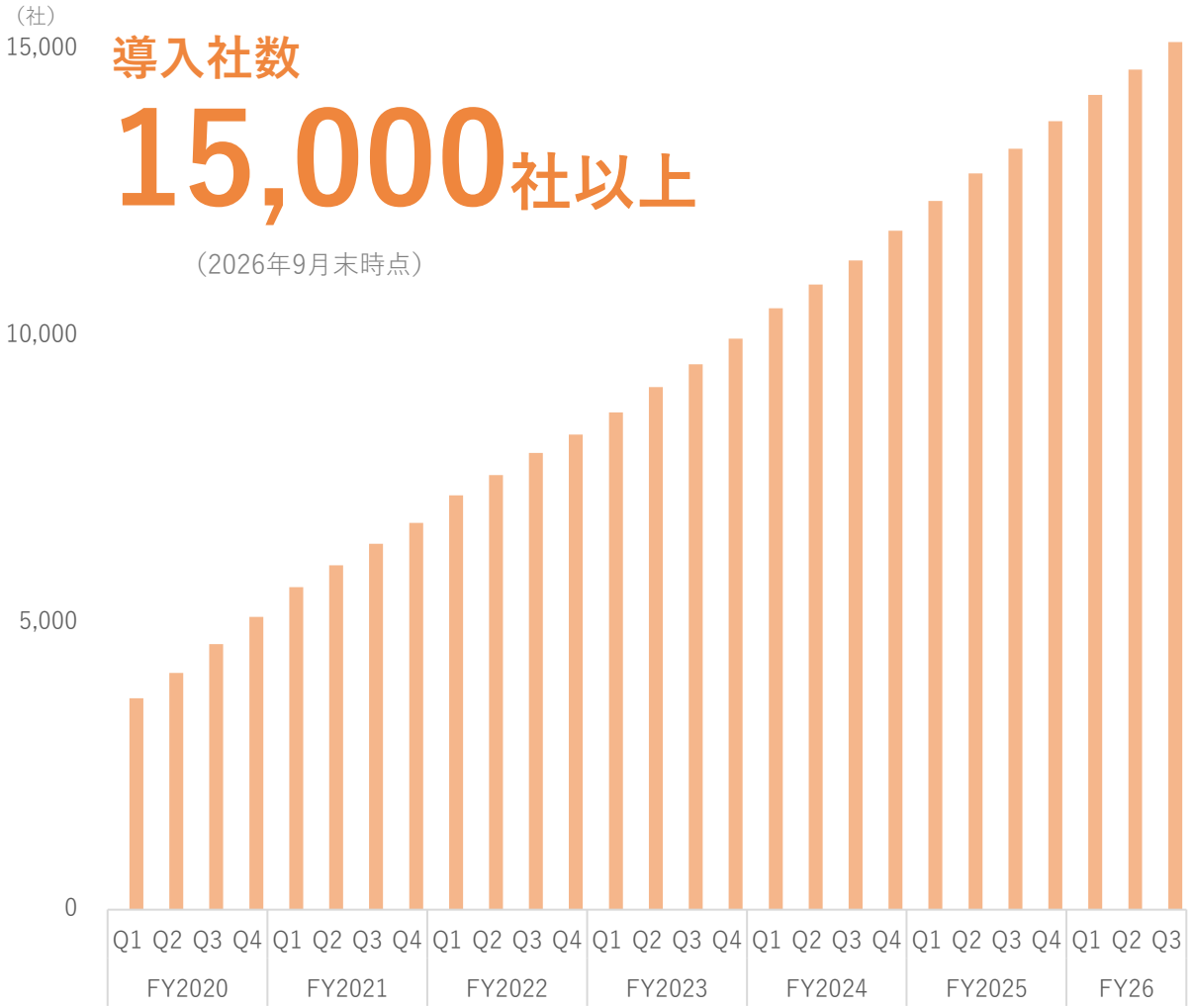
企業の規模や業種等によって、**求められるセキュリティニーズは様々**であり
当社のソリューションは、そうした**様々なニーズに柔軟に対応**

当社のポジショニング		外部犯罪対策	**内部不正対策**	**内部不正対策 認証取得**	内部不正対策 法規制FISC,HACCP等 重要機密
オフィス	対象	外部犯罪対策	**内部不正対策**	**内部不正対策 認証取得**	内部不正対策 法規制FISC,HACCP等 重要機密
	主な対策	• 遮断	• 入退室マネジメント • ログの保存	• 高度な入退室マネジメント • ログの保存 • 画像データの保存	• より高度な入退室マネジメント • ログの解析 • 画像データの長時間保存
	推奨システム	• 鍵・テンキー式ロック • スマートロック	• 入退室管理システム	• 入退室管理システム • 監視カメラシステム • 顔認証、AI	• 入退室管理システム • 監視カメラシステム • セキュリティゲート
リテール	対象	小規模店舗のレジや店内の簡易的なモニタリング	**レコーディング 高度なモニタリング**	**万引きや内部不正 バイトテロ対策**	防災センターや本部での集中監視
	主な対策	• 遮断	• 入退室マネジメント • ログの保存	• 高度な入退室マネジメント • ログの保存 • 画像データの保存	• より高度な • 入退室マネジメント • 画像データの解析 • 画像データの長時間保存
	推奨システム	• 鍵・テンキー式ロック • スマートロック • 簡易カメラ	• 入退室管理システム • 監視カメラシステム	• 入退室管理システム • 監視カメラシステム • 顔認証、AI	• 入退室管理システム • 監視カメラシステム • セキュリティゲート

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

導入企業数の推移

大規模商業施設からITベンチャー、食品工場まで15,000社以上の導入実績
様々なお客様の働く環境に、安心・安全とプラスアルファの価値を提供



導入クライアント（一部抜粋）

LINEヤフー
mercari
SmartNews
日清製粉グループ
RAKSUL
九州フィナンシャルグループ
Kyushu FG
ほぼ日 Group
5G Innovations
GA TECHNOLOGIES
ADASTRIA Play fashion!
i-mobile
杉戸天然温泉 雅楽の湯

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

最適化モデル：コストパフォーマンスに優れたシステム構築

SECURE

サービス提供の範囲	A社 一般的なソフトウェア系企業	B社 一般的な監視カメラ入退室システム企業	当社 画像認識からソフト・ハードや設置環境まで、それぞれ高い専門性を持っているので、リソースの無駄なくパフォーマンスを最大限に引き出したシステムの提供が可能
画像認識	↕		一気通貫して対応可能 ↕
ソフトウェア	↕		↕
サーバ構築	↕		↕
デバイス		↕	↕
ネットワーク構築		↕	↕
システム設計		↕	↕
設置環境		↕	↕
アフターフォロー		↕	↕

POINT

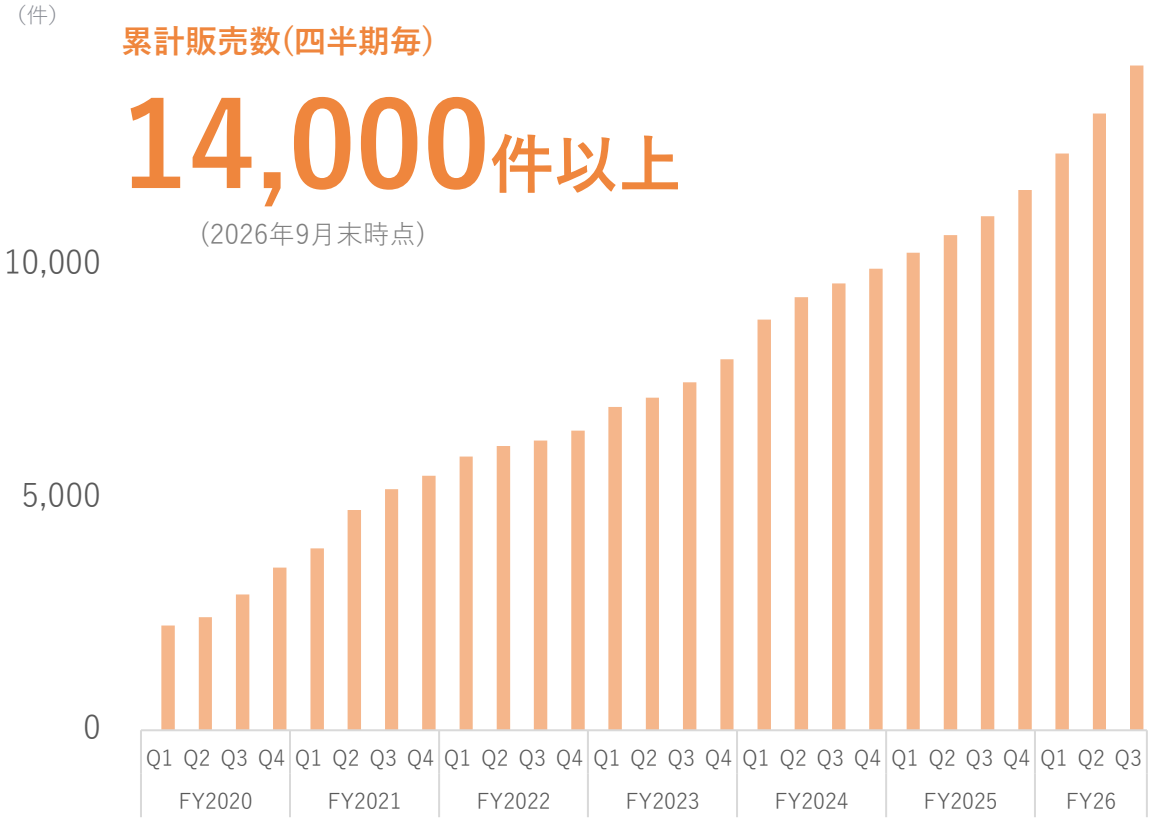
1. 1,000種類以上のデバイスから最適提案
2. パフォーマンスとコスト・品質の最適化
3. オンプレ or クラウドニーズに合わせて提案

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

顔認証/画像認識技術 x セキュリティ

高度な顔認証・画像認識技術を活用し、顧客ニーズと世の中の流れを汲んだサービスを開発
特に顔認証関連商品は、ライセンス・デバイス合わせて14,000件以上の導入実績
非接触ニーズで需要の高まっている**顔認証の国内シェアは数量と売上高でNo.1を獲得**

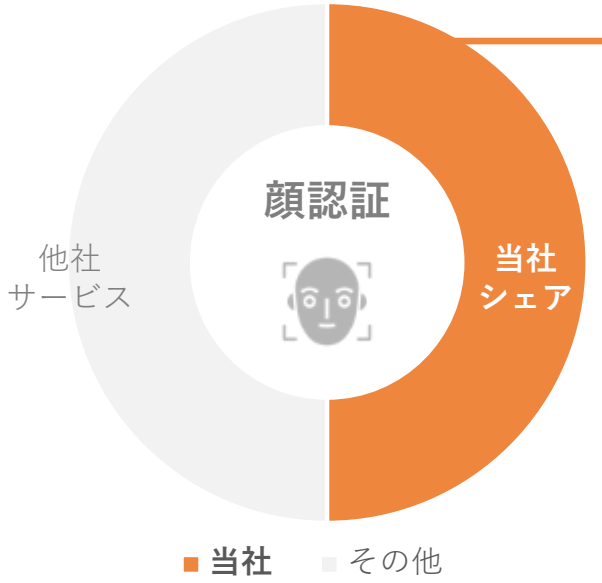
顔認証関連のサービスの概況



※ライセンス：「顔認証のぞき見ブロッカー」「Face Tracker」の顔認証ソフトウェアライセンス
※デバイス：入退室管理システム導入時に設置される顔認証デバイス

顔認証国内シェア率（入退室管理用途）

オフィスやフィットネス
食品工場等で幅広く導入
依然高い非接触ニーズで今後も需要高まる



SECURE
50.0%
2024年実績
（数量ベース）

4度目のNo.1獲得！

売上高もNo.1獲得！

出典：富士経済「DXを実現するセキュリティ関連技術・市場の将来展望2025」の
2024年実績（数量ベース・金額ベース・入退室管理システム）

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

Security System Labで高度化と専門性を追求

Security System Labでシステムの最適化の研究と専門人材の育成を行ない、
高度なセキュリティサービスを**顧客にとって最適なソリューションとして提供**できるよう**研究開発を実施**

多様な要素を常にアップデートしシステムの高度化を追求



- デバイス
- サーバー構築
- ソフトウェア
- ネットワーク構築
- システム設計
- 画像認識
- 設置環境

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

（参考資料）導入事例 NX鳥栖ロジスティクスセンター

日本通運の九州最大級の倉庫にセキュアの監視カメラシステムが採用

広範囲モニタリングが可能な全方位カメラを活用した一括管理システムで業務効率化と
DX化、セーフティ管理をサポート



詳細は当社HPをご覧ください。
https://secureinc.co.jp/news/detail.html?id=2135

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

（参考資料）導入事例 スマートニュース



認証率の高さと信頼から
SECUREの顔認証システムを導入

導入サービス　SECURE AC

複数拠点 多フロアのオフィスを一元管理
１８扉すべてを顔認証で入退室管理



導入企業

企業名　：スマートニュース株式会社

事業内容　：ニュースアプリ「SmartNews」の企画・開発・運用

所在地　：東京都渋谷区

導入年月　：2021年 5月

SmartNews

従業員数
約500名

導入理由

- テレワークに対応できるシステムへの更新
- 新入社員の登録の煩雑さの低減
- フロアごとの在籍者管理をデジタルで実施したい
- 体温記録台帳の廃止

選定ポイント

- スピード・精度・コストに優れた顔認証システム
- 入退室の認証でストレスを感じさせない
- 運営コストも抑えつつ、堅固なセキュリティレベルを実現
- 今後の分析サービスのアドオンにも期待

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

（参考資料）導入事例 トライアルカンパニー



次世代型複数店舗にロス率削減のために監視カメラシステムを導入

選定のポイント

- 運用性に優れた高度なモニタリングシステム
- 豊富なラインナップ＋互換性
- データ損失のリスクに対応
- AI実装や他システムとの連携性に優れたスケーラビリティ

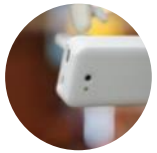
導入サービス　SECURE VS

店舗経営におけるロス率の削減を目指す

TRIAL
Retail
AIソリューション

SECURE
セキュリティ
ソリューション


スマートショッピングカート


リテールAIカメラ


セキュリティカメラ


モニタリングシステム

＊AIによる万引き犯によるロス率の分析や削減を目指した実証実験進行中

導入企業

TRIAL

企業名	：	株式会社トライアルカンパニー
事業内容	：	小売/ソフトウェア開発/物流/商品開発・製造
所在地	：	福岡県福岡市
導入年月	：	2020年～順次

従業員数(グループ)
約5,295名

導入サービス　SECURE AC

トライアルグループのAI拠点である
「リモートワークタウン宮若」の施設内に
顔認証をはじめとした**入退室管理システムSECURE ACを導入**




顔認証


指紋認証

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

（参考資料）導入事例 ドトールコーヒー



混雑見える化で安心して入店

導入サービス SECURE Analytics



導入企業

DOUTOR

企業名　：株式会社ドトールコーヒーのフランチャイズ加盟店である
マルエイフーズ株式会社

所在地　：高知県高知市

導入年月　：2021年 8月

導入理由

- **新型コロナウイルスなどの感染症拡大の影響により、来店客数の減少を予測して店舗DXを検討**
- 感染対策や従業員のオペレーション改善
- 群衆や混雑の見える化を行いたい
- 店内の混雑状況を計測を行える
- 来店客が1階から3階の店内全フロアの混雑状況を事前に確認できる
- 従業員がスムーズに来店客を空いている席へ案内することが可能になった

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

B/Sのサマリー

（百万円）	FY2023 実績	FY2024 実績	FY2025 実績	FY2026 Q3実績	前期末比 増減額
流動資産	2,408	2,942	4,291	6,303	+2,011
現金及び預金	808	1,195	2,253	2,407	+154
受取手形、売掛金及び契約資産	786	867	971	1,419	+447
商品	725	707	935	1,572	+637
固定資産	341	842	965	1,497	+531
総資産	2,749	3,784	5,257	7,801	+2,543
負債	1,727	2,502	2,331	3,403	+1,072
買掛金	342	385	547	732	+185
有利子負債*	874	1,426	1,035	1,594	+559
純資産	1,022	1,282	2,926	4,397	+1,471
自己資本比率	37.2%	33.9%	55.7%	51.8%	△3.90%

*有利子負債＝短期借入金+1年内返済予定長期借入金+長期借入金

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

［ご参考］ 財務ハイライト

		FY2016* 15期	FY2017* 16期	FY2018* 17期	FY2019* 18期	FY2020 19期	FY2021 20期	FY2022 21期	FY2023 22期	FY2024 23期	FY2025 24期
売上高	(千円)	998,292	1,383,684	1,473,179	1,717,077	2,790,181	3,378,576	3,384,508	5,191,074	6,247,242	6,840,816
経常利益	(千円)	△123,965	39,304	66,109	△56,570	27,637	148,041	△183,605	175,425	293,746	299,863
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	△140,387	31,525	46,750	△47,191	33,032	131,476	△227,627	168,790	240,561	187,586
資本金	(千円)	227,000	227,000	227,000	294,000	294,000	490,213	536,808	540,827	546,884	1,282,493
発行済株式総数	(株)	120,554	120,554	120,554	138,054	138,054	4,590,620	4,717,020	4,744,920	4,777,620	5,639,420
純資産額	(千円)	41,032	71,950	119,313	421,740	455,236	983,086	842,138	1,022,308	1,282,134	2,926,474
総資産額	(千円)	602,748	577,176	786,339	1,261,002	1,468,294	1,981,467	1,993,000	2,749,733	3,784,347	5,257,475
１株当たり純資産額	(円)	340.37	596.83	989.71	19.84	29.10	214.15	178.53	215.42	268.33	518.91
１株当たり当期純利益	(円)	△1,164.52	261.51	387.80	△13.04	7.98	31.67	△48.52	35.67	50.53	34.30
自己資本比率	(%)	6.8	12.5	15.2	33.4	31.0	49.6	42.3	37.2	33.9	55.7
自己資本利益率	(%)	-	55.8	48.9	-	7.5	18.3	-	18.1	20.9	8.9
営業キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	△145,328	△132,113	122,231	△268,301	99,185	331,256	220,003
投資キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	△40,341	△83,268	△70,779	△144,709	△36,117	△502,486	△267,279
財務キャッシュ・フロー	(千円)	-	-	-	471,241	90,585	252,140	210,163	270,575	558,218	1,078,140
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	-	-	-	496,345	372,110	675,933	474,194	808,950	1,195,606	2,226,823
従業員数	(人)	51	48	57	68	91	98	113	154	178	215

※FY2019までは単体でFY2020より連結の数値、FY2018までは監査を受けていないため参考数値

© SECURE Inc. All Rights Reserved.

本資料の取り扱いについて

- 本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。将来の見通しに関する記述は、本資料の日付時点の情報に基づいて作成されています。これらの記述は、将来の結果や業績を保証するものではありません。将来予想に関する記述には様々なリスクや不確実性が含まれており、その結果、実際の業績や財務状況は、将来予想に関する記述によって明示的または黙示的に示された将来の業績や結果の予測とは大きく異なる可能性があります。

- これらの記述に記載された結果と大きく異なる可能性のある要因には、国内及び国際的な経済状況の変化や、当社が事業を展開する業界の動向などが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

- また当社以外の事項・組織に関する情報は、一般に公開されている情報に基づいており、当社はそのような一般に公開されている情報の正確性や適切性を検証しておらず、保証しておりません。

© SECURE Inc. All Rights Reserved.